

医学系研究に関する情報の公開について

2023-92

研究機関名*	独立行政法人労働者健康安全機構 大阪労災病院
研究課題名*	アルブミン値による肝臓の stage 及び生命予後に及ぼす影響についての検討
所属科*	消化器内科
研究責任者*	平松直樹
研究実施期間	開始 西暦 2023 年 1 月 1 日 ~ 終了 西暦 2023 年 12 月 31 日 (予定)
対象疾患 (予定症例数)	肝細胞癌 (286 症例)
研究対象となる治療・手術・検査の時期	自 西暦 年 月 日 ~ 至 西暦 年 月 日
研究概要*	<p>肝臓患者において、肝予備能は治療選択や予後予測に重要な因子である。肝予備能評価として血中アルブミン(A1b)値と総ビリルビン(Bil)値のみを用いた ALBI grade が予後予測に有用であるが、A1b は肝予備能の指標というだけでなく、A1b そのものが腫瘍抑制因子として働き、A1b 量の減少が肝細胞癌の浸潤・転移を促進することが報告されている (Fu X. Liver Int. 2022;42:696-709)。初発肝細胞癌と診断された ALBI grade2 症例において、A1b 値と全生存期間(OS)の延長、腫瘍増大や進行度の関連を検討することを目的とした。2015 年 1 月から 2019 年 12 月の間に、当院で初発肝細胞癌と診断された 286 症例のうち、ALBI grade2 は 141 症例であった。ALBI grade2 症例における A1b の平均値は 3.5g/dl、Bil 値の平均値は 1.0mg/dl であったため、本研究ではこれらを基準値とし、A1b 正常群 (A1b 良好(3.5g/dl 以上)かつ Bil 不良(1.0mg/dl 以上)) 42 症例、A1b 低値群 (A1b 不良(3.5g/dl 未満)かつ Bil 良好(1.0mg/dl 未満)) 36 症例の計 78 例を対象として、2 群間での全生存期間(OS)、肝臓 stage、最大腫瘍径、腫瘍個数、初回治療法について検討した。t 検定、χ^2 検定、log-rank test を用いて解析を行った。</p>

別紙第2号様式

倫理的配慮・個人情報の保護の方法について*	連結不可能匿名化を行う。学会や論文等で研究成果を発表する場合は、個人を特定できる情報を明らかにすることは決して行わない。
研究の問い合わせ先*	

*記入必須項目